

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	秦野斎場増築改修工事	階数	地上2F
建設地	神奈川県秦野市曾屋1006番	構造	RC造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	80人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,593時間/年
建物用途	集会所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2015年12月9日
敷地面積	5,427 m ²	作成者	株式会社 類設計室
建築面積	1,847 m ²	確認日	2015年12月16日
延床面積	2,908 m ²	確認者	株式会社 類設計室



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		その他
総合 誰もが参加しやすい包容力を持ち、葬送の場を支援する、機能性の高い斎場として計画した。また、自然豊かな地域景観と調和し、変化する社会状況に適切・存続する斎場として計画した。		
Q1 室内環境 ホルムアルデヒド及びVOCの放散量が少ない建材を使用することはもちろん、会葬者が長時間使用する室(待合室・エントランス)に関しては利用者が容易に換気を行うことができるように自然排煙及び中間期自然換気が行えるように配慮。(窓の数・面積・網戸設置) 騒音に関しても積極的に来館者のたまり場となるエントランスや騒音源のある集塵機械室及び火葬炉室等には積極的に吸音材を使用。	Q2 サービス性能 「地域共同体を再生・地域力を上昇させるデザイン」という明確なコンセプトを軸に施設全体に右・左官・木などの自然素材を積極的採用。また、会葬者スペース・管理者スペースともに余裕をもった設えとすることで清掃用具等のスペースも管理し、使いやすさ・維持管理性に配慮。災害時においても、火葬を継続して行えるよう、設備耐震性を高く設定し、安全性・インフラの確保に配慮した。耐震安全性の分類は、Ⅱ類施設同等として標準建物の1.25倍の耐震性の確保をした。	Q3 室外環境 (敷地内) 丹沢大山の景観に溶け込むに勾配屋根を採用。屋根や外壁はアースカラーを基調としたものとする事で自然豊かな秦野の地域景観と調和し、かつ落ち着きある施設とした。 また敷地内は植栽・屋上緑化・緑化ブロック敷設を積極的に行うことで緑地率も20%以上確保。
LR1 エネルギー トップライト、光ダクト、光庭を設け自然光の利用をし、照明電力の削減を図る。 照明器具はLED照明器具を採用し、照明電力の削減を図る。 便所洗浄水と屋上散水に雨水を利用し、水道水の使用量の削減を図る。地中ビットからの冷気を有効利用し、空調負荷削減を図る。	LR2 資源・マテリアル 屋根で集水した雨水を便所の洗浄水として利用し、各衛生器具も節水仕様のもので採用することで秦野の水資源保護に配慮した。また、屋内外には秦野市・伊勢原市等の地元産材を積極的に活用。	LR3 敷地外環境 屋根材に反射率の低い素材(フッ素珪素樹脂板及びチタン亜鉛合金)を使用することで公害防止に配慮。また、騒音に関しても本施設内において騒音の発生しやすい室(火葬炉室・集塵機械室)と外部をつなぐ開口部分には窓を設置せず、扉についてもT-2の遮音性をもつ建具を採用し、配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される